



a 0 7 0 7 0 0 0 0 a

平成 2 7 年

国家戦略特別区域限定保育士試験問題

子どもの保健

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
鉛筆・シャープペンシル以外での記入は、0点になる場合があります。

(良い例) … ● (濃くマークすること。はみだしは厳禁)

(悪い例) … ○ ● ⊗ ⊘ ⊚ ⊛ ⊜ ⊝ ⊞

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、保育所・保育士の役割もしくは他機関・他の専門職との関係、協力のあり方に関する記述である。誤ったものを一つ選びなさい。

- 1 子どもが健康に生まれ、育てられる基盤となる母性を尊重、保護し、子ども自身が生まれながらにして本来もっている発育（成長）・発達する能力を援助、支援することが大切である。
- 2 現在は、栄養不足に伴う発育不良により免疫力が低下した母子の感染症をいかに予防・治療するかに重点がおかれている。
- 3 現在は、子どもを取り巻く環境が大きく変化したなかで、その環境において子育てのあり方はどうあるべきか、また、医療の進歩や衛生環境の整備により、長期生存が可能になった慢性疾患児の生活の質をどのように確保するかが、課題となっている。
- 4 子どものより良い発育（成長）・発達を促していくためには、環境をどのように整備すべきか、保育士、医師、保健師、看護師、栄養士をはじめとした、健康にかかわる多分野の専門職が協力することが必要である。
- 5 子どもの保護者は、いろいろな専門家の助言や助力を得ながら、地域社会や行政組織と一緒に、子どもにとってより良い方向を目指すことが望まれる。

問2 次の文は、乳幼児への薬の飲ませ方の工夫に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A 砂糖、はちみつ、シロップ、ココア、バニラなどの甘味料や香料を加えて飲ませる。
- B コップ一杯のスポーツドリンクやお茶などの飲料に溶かして飲ませる。
- C 薬を飲ませてすぐに、好きな飲食物を与える。
- D 粉薬は少量のぬるま湯で練ってペースト状にし、上顎又は頬の内側にぬる。
- E 粉薬はおよそ10 ml のぬるま湯で溶かし、全量を一回でスプーンやスポイトでなるべく口の奥に入れる。

(組み合わせ)

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B E
- 4 C D
- 5 D E

問3 次の文は、遺伝に関する記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 常染色体性遺伝とは、22対の常染色体にある遺伝子の異常（欠損もしくは機能異常）により生じ、劣性遺伝と優性遺伝がある。
- 2 伴性遺伝とは、性染色体のうちY染色体にある遺伝子の異常（欠損もしくは機能異常）によって生じる。
- 3 遺伝性疾患としては、アトピー性皮膚炎や2型糖尿病がある。
- 4 ヒトのABO式血液型に伴って性格も遺伝する。
- 5 21トリソミーは、染色体異常症で遺伝する疾患としては頻度の高いものである。

問4 次の文は、子どもの病気や育児に関する記述である。誤ったものを一つ選びなさい。

- 1 小児慢性特定疾患治療研究事業は、難病対策の法定化に併せて見直しが行われ、2015（平成27）年より対象疾患が拡大された。
- 2 新生児マススクリーニングは、生まれつき代謝異常などがある子どもを新生児期に発見、治療を開始するための集団検査である。
- 3 病児保育事業は、保育所に通っている子どもが病気になった場合、委託する医療機関のみで、保育・看護する事業である。
- 4 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備、また、子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減は大切である。
- 5 育児には不安や悩みがつきものであるが、多様な生き方をお互い認め合い、尊重し合う社会、そして、それぞれの地域社会の実情に応じた育児支援が望まれる。

問5 次の文は、乳幼児の生活習慣にかかわる健康問題に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 食事中、遊んでしまう子や、むら食いの子などでは、食事に集中させるために1人で食べさせる。
- B スムーズに食べられるように、食事中も十分に水分を補給させる。
- C 睡眠時間が短いと、ホルモンの分泌や自律神経のバランスが崩れ、脂肪の分解や糖代謝が不十分になり、肥満につながるといわれている。
- D 子どもの接触性皮膚炎では、皮膚機能が未熟なために皮膚への軽微な物理的刺激による炎症である非アレルギー性のものが多い。
- E 乳幼児突然死症候群は、遺伝的要因と発症前の心身の不調が原因である。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | × | ○ | ○ | ○ | × |
| 3 | × | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | × | × |

問6 次の文は、感染症に関する記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 おたふくかぜは流行性耳下腺炎とも呼ぶが、ムンプスウイルス感染によって両側の耳下腺が同時に腫れるのが特徴である。
- 2 水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスの初感染で生じる全身性の発疹（紅斑、水疱）が特徴で、すべての発疹が痂皮化するまで感染の可能性がある。
- 3 インフルエンザは、急な発熱と関節痛及びじんま疹様の発疹が特徴である。
- 4 インフルエンザ菌による髄膜炎は、ワクチンの効果で発症がなくなった。
- 5 ヒブワクチンは肺炎球菌による髄膜炎を予防する。

問7 次のうち、幼児に赤味をおびた尿の症状が見られた場合に可能性が考えられる疾患として正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 急性腎炎
- B 肺炎
- C 出血性膀胱炎
- D 気管支炎
- E 肝炎

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B D
- 4 C E
- 5 D E

問8 次の文は、乳幼児に見られる感染症やその対応に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

- A はしか、水ぼうそう等で見られるように、感染している人の咳やくしゃみで体外に出た飛沫が乾燥し、感染力を有したまま空中に拡散し、その空気を吸い込むことで感染することを飛沫感染という。
- B 冬に流行する乳幼児の胃腸炎は、ほとんどがウイルス性のものである。
- C ヘルパンギーナは、冬によく見られるウイルスによる疾患で、急な発熱と強いのどの痛みが特徴である。
- D 突発性発疹は6か月から1歳までに罹患することが多いが、生後はじめての発熱であることが多い。
- E 伝染性膿痂疹は、虫刺されや湿疹を掻いた部分に細菌感染を起こしたもので、かゆみはひどいが感染性はない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	×	×
2	○	×	×	○	×
3	×	○	○	○	○
4	×	○	×	○	×
5	×	○	×	×	○

問9 次の文は、子どもの発達過程についての記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 おおむね6か月未満の子どもでは首がすわり、手足の動きが活発になる。
- 2 おおむね6か月から1歳3か月未満の子どもでは、すわる、はう、立つ、つたい歩きができるようになる。
- 3 おおむね1歳3か月から2歳未満の子どもでは、歩き始め、手を使うようになる。
- 4 おおむね2歳の子どもでは、歩く、走る、跳ぶなどができるようになる。
- 5 おおむね3歳の子どもでは、スキップを正しくできるようになる。

問10 次のうち、2012（平成24）年、日本の1～4歳児に関する不慮の事故の死因の第1位～第3位として正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 交通事故
- B 転倒・転落
- C 不慮の溺死及び溺水
- D 不慮の窒息
- E 煙、火及び火炎への曝露

（組み合わせ）

- 1 A B D
- 2 A C D
- 3 A C E
- 4 B C E
- 5 B D E

問 11 次の A～Dのうち、障害名及び疾患名とその症状として適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 胎児性アルコール症候群 — 中枢神経系の機能障害
B ド・ラ・トゥレット症候群 — 無差別的社交性
C AD/HD — 不注意
D 側頭葉てんかん — 自動症

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	×

問 12 次の文は、子どもの摂食の問題に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 母子間の相互交流の問題は、乳幼児期の摂食の問題に影響する。
- B 生後4か月頃から1歳頃の正常発達の過程で、紙、クレヨン、小石などを口に入れることがある。
- C 重度の知的遅れを有する自閉症の子どもには、異食症がみられない。
- D 広汎性発達障害の子どもには、偏食がみられない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問 13 次の文は、習癖異常に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 習癖異常の症状には、指しゃぶり、爪かみ、鼻ほじり、抜毛などがある。
- B 幼児期にみられる習癖異常の多くは、成長とともに減少する。
- C 保育士が習癖を心配する親から相談を受けたときは、すぐにその行動を止めさせるように助言する。
- D 心理的要因だけでなく、脳の器質的要因も考えられている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問 14 次の文は、薬物の乱用・依存・中毒に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 薬物依存には、乱用によって生じる生物学的要因が関与している。
- B 依存の概念は、精神依存と身体依存に分けて説明されることがある。
- C 依存症は、その人の意志の問題であるため、強い意志を持てば治すことができる。
- D 幼児期や児童期には薬物の乱用・依存はみられない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | × | ○ | × |
| 5 | × | × | × | × |

問 15 次の文は、乳幼児期における心理・社会的発達のアセスメントに関する記述である。
適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 乳幼児精神保健における乳幼児の評価（精神状態の把握）については、精神障害の評価のみで十分である。
- B この時期の心理・社会的問題のほとんどが、環境からの影響として説明できる。
- C 家庭の経済的貧困は、乳幼児の心理・社会的発達の危険因子の一つである。
- D 両親間に暴力が頻発することは、乳幼児の心理・社会的発達の危険因子の一つである。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問 16 次の文は、乳幼児の排泄のケアに関する記述である。(A) ~ (E) にはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

排泄とは摂取した食べ物の残りかすや老廃物を体外に出すことをいう。尿は (A) でつくられ、膀胱に溜められる。また、(B) で栄養分を吸収された食べ物は小腸で (C) が吸収されて便となる。

乳児期は無意識の反射により尿の排泄をしているが、2~3歳頃になると膀胱に尿が溜まったという刺激が脳に伝わるようになり、自分の意志で排尿の調節ができるようになる。

大腸に便が溜まって便意がおきると、自分の意志では動かさない (D) が弛緩する。通常は、その後、自分の意志で動かすことができる (E) を用いて便を排泄するが、乳児期から1歳の子どもの場合は排便機能は未熟で、排便が自分の意志で自由に行えるようになるのは、排尿と同じく2~3歳頃である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	肝臓	胃	塩分	内肛門括約筋	外肛門括約筋
2	腎臓	小腸	塩分	内肛門括約筋	外肛門括約筋
3	膀胱	十二指腸	水分	外肛門括約筋	内肛門括約筋
4	腎臓	小腸	水分	内肛門括約筋	外肛門括約筋
5	肝臓	小腸	糖分	外肛門括約筋	内肛門括約筋

問 17 次の文は、子どもに関する用語についての記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 正期産児とは、在胎 40 週から 42 週の分娩で生まれた児をいう。
- 2 早期産児とは、在胎 37 週未満の分娩で生まれた児をいう。
- 3 低出生体重児とは、生下時体重 2,000 g 未満の児をいう。
- 4 胎齢 10 週未満を胎芽という。
- 5 妊娠 20 週未満の妊娠の中絶を流産という。

問 18 次の文は、保育所での個人情報に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A 知り得た情報を多くの人たちに知ってもらい、保育に役立てる。
- B 子どもの健康状態を理解することは、保育者として大切である。
- C 子どもの保護者の同意を得ないで、個人情報を公開してはならない。
- D 子どもの健康状態や病気の回復の見込み等は、他の入所児の保護者と全て共有できるよう配慮する。
- E 職員室の中で子どもの病名や病状に関して、必要がない時に話題にすることがないよう配慮する。

(組み合わせ)

- 1 A B D
- 2 A C D
- 3 A C E
- 4 B C E
- 5 B D E

問 19 次の文は、わが国の子どもの健康とその統計に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 出生率の高い都道府県は、主に大都市とその周辺である。
- B 健康指標のうち人口動態統計は、個別の健康状態を評価するために用いる。
- C 乳幼児身体発育曲線は、文部科学省が10年ごとに行う乳幼児身体発育調査の結果をもとに作成している。
- D 合計特殊出生率は、実際の値から得たものではなく、推計値である。
- E 周産期とは、妊娠満22週から出生後7日未満までの期間のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	○
2	○	×	×	○	×
3	×	○	○	○	×
4	×	×	×	○	○
5	×	×	×	×	×

問 20 次の文は、乳幼児の体温と呼吸に関する記述である。最も適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 健康な乳児の体温は、腋窩測定でおよそ 38℃ 前後である。
- 2 健康な乳児の体温は、腋窩測定と直腸測定でほぼ等しい。
- 3 健康な幼児の体温は、腋窩測定でおよそ 37℃ 前後である。
- 4 健康な乳児の呼吸数は、1 分あたりおよそ 80 である。
- 5 健康な幼児の呼吸数は、1 分あたりおよそ 70 である。